

## 「全鍍連」 2017年 10月号 いきいき地域

三重県鍍金工業組合 大笹 暢 (株)オーエスケーアイ 代表取締役社長)

### 「伊勢志摩サミットを振り返って」

昨年の5月、三重県の志摩市で主要国首脳会議（伊勢志摩サミット）が開催されました。あれから1年以上経過してサミット会場である賢島はいまでも多くの観光客で盛況のようで、各国首脳が味わった名産品の数々は売上を伸ばしているようです。しかしこのような世界的なイベントにおいては一過性の需要が濃く、サミット効果も地域や施設において色合いが大きい。現時点での効果は正直、サミット会場である賢島と伊勢神宮の他、一部の特産品でしか効果があらわれていないのが実情である。三重県が当初予想していたサミット後の経済効果が1489億円と予想しているが、果たしてこの数字を達成できるかどうかを今後、見守って行く必要があります。

そんな状況下の中、今年8月上旬に伊勢志摩に行ってきました。

まず、最初に訪れた場所は近鉄賢島駅2階に今年5月にオープンしたサミット記念館「サミエール」。入口に入り少し進むと各国首脳の等身大パネルが我々を迎え入れてくれます。そこには各国首脳の記名帳、贈答品の実物などが展示されていました。またこのサミエールにはサミットで使用された尾鷲ヒノキの円卓があり各国首脳が着座した椅子も展示されていました。ちなみに椅子は座ることも可能な為、首脳気分を味わえることもできるのです。そして壁にはサミットの歴史及びサミット当日の状況を紹介したパネルも展示されていました。最後に三重県の特産品等の紹介コーナーがあり、三重県の魅力を感じることができます。

その後、サミエールを出て志摩方面の施設を見学した後、宿泊地の鳥羽のホテルに到着しました。ここでまず感じたことは他府県ナンバーが多いことでした。通常は三重県という立地から関西及び中部圏がほとんどですが、関東圏、九州圏からのナンバーもあり、またロビーに入ると外国人観光客もおり宿泊しており、この点からもサミットの効果が感じられました。

翌日、ホテルを出て、伊勢神宮に行ってみることにしました。当日、天気が悪いのに拘わらず夏休みということもあり伊勢神宮内宮へ向かう参道（おはらい町通り）は人出も多く非常に混雑しておりました。またここでも宇治橋を渡り正宮へ向かう途中では外国人がいつもより多いとは感じました。

最後にサミット効果がいつまで続くか不透明ではありますが三重県にはいくつもの魅力な点があります。三重県にきたことがない方はぜひ一度いらしてみたいはいかがでしょうか。

(株式会社オーエスケーアイ 代表取締役)